

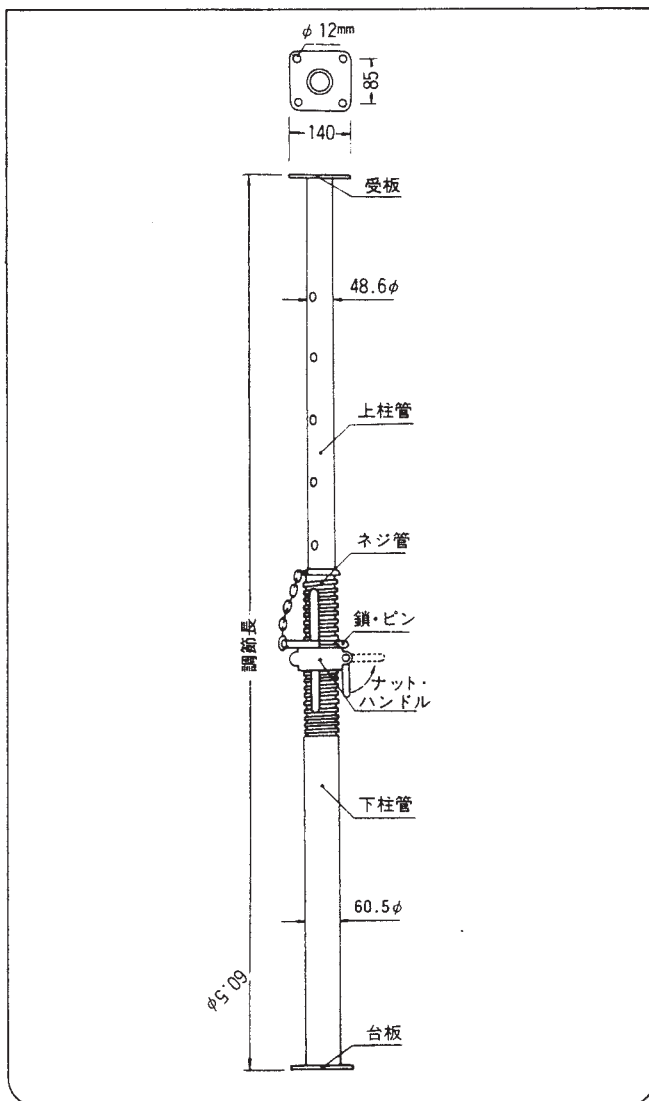
# パイプサポート

## ●サポート

区分	型式	S-90S	S-70S	S-60S	S-40S	S-30S	S-20S
最大使用長		3,950	3,450	3,150	2,000	1,500	950
最小使用長		2,600	2,100	1,800	1,200	900	600
調節範囲		1,350	1,350	1,350	800	600	350
ネジ調節		135	135	135	135	135	135
製品重量 kg		13.8	12.5	11.8	8.8	7.2	5.4
安全荷重 kg		1,500	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

## ●パイプサポート

S



## ●補助サポート

40型

**補助サポート**

型式	有効長	単重 kg
12	1200	4.9

根がらみクランプ  $\phi 60.5 \times$  兼用クランプ

品番	用途	重量 kg
直交	パイプサポート	0.77
自在	パイプサポート	0.77

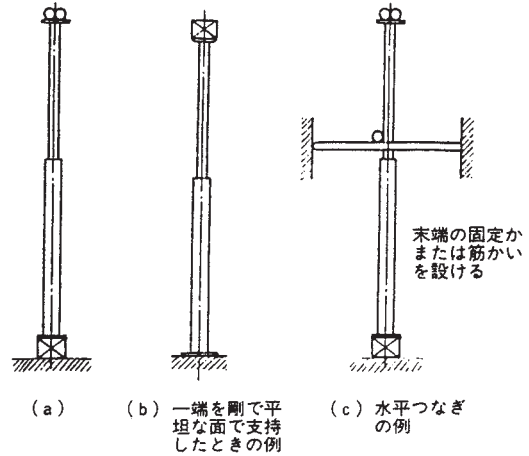
スベリ耐力	4.9kN	0.5t
許容せん断強度	4.9kN	0.5t

# パイプサポート

パイプサポートの許容荷重

サポート 使用長 (m)	材端条件		
	(a)	(b)	(c)
	水平つなぎ (無)	水平つなぎ (無)	水平つなぎ (有)
3.4	1,000kg	1,500kg	2,000kg
3.3	1,100	1,550	
3.2	1,200	1,600	
3.1	1,300	1,650	
3.0	1,400	1,700	
2.9	1,500	1,750	
2.8	1,600	1,800	
2.7	1,700	1,850	
2.6	1,800	1,900	
2.5	1,900	1,950	
2.4	2,000	2,000	

施工時の材端条件



▶3.4m以上の場合は必ず2m以内ごとに水平つなぎを直角方向に設け、つなぎの変位を防止して下さい。

この場合、許容荷重は2,000kgとなります。

▶2.4m以下の場合の許容荷重は2,000kgを限度とします。

## ●施工上の注意事項と施工例

- サポート上下の固定は受板、台板に設けられているボルト穴で、くぎを用いて大引きおよび敷角に止めて下さい。
- パイプサポートの継ぎたしは2本までとし、3本以上継いで使用しないで下さい。
- パイプサポートまたは補助サポートを継いで用いるときは、ボルト式では径に見あったボルトで必ず4箇所緊結し、差込式では確実に根元まで差し込んで下さい。
- パイプサポートには、必要により筋かいなどを取り付けて安定性を増大させて下さい。
- パイプサポートの高さが3.5mをこえる場合には、次により水平つなぎを設けて下さい。
  - ① 水平つなぎ材は、鋼製のものを用いて下さい。
  - ② 高さ2m以内ごとに水平つなぎを2方向に設け、かつ水平つなぎの変位を防止する措置を講じます。(水平つなぎの末端を突きつけるか、堅固なものがないときは、筋かいを併用して下さい。)
  - ③ 水平つなぎとパイプサポートの緊結は、専用の緊結金具(クランプ)を使用して下さい。

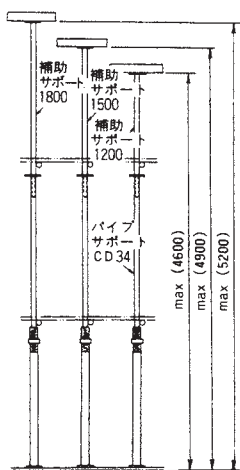
# パイプサポート

6. 上下のサポートの間に敷板または大引きなどははさんで段状に組み立てる場合は、次のような措置が必要です。

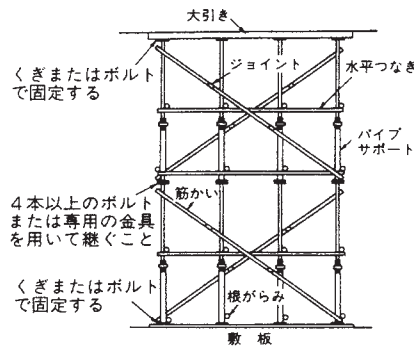
- ① 上下の各サポートはできるだけ鉛直になるように、また中心をそろえて設置します。
- ② 敷板、大引きは2段以上はさまないで下さい。（3段以上の段組みの禁止）。
- ③ 敷板、大引きを継いで用いるときは、あて板を用いて連結し、かつ継手の位置はそろえないようにします。

7. 階段、はりのハンチなどの部分で、パイプサポートを斜めにして建て込む必要がある場合には、サポートの頭部または脚部にキャンバーを用い、かつ根がらみなどを取り付けて安定させて下さい。

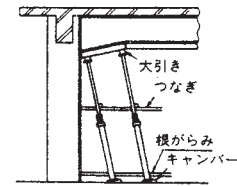
8. 高さ7m以上（パイプサポートの2本継ぎをこえる長さ）の支保工を必要とする場合は、原則としてサポート1本分の高さを残して、わく組その他によって構台を組み、その上にパイプサポートを設置します。



補助サポートの併用(3m400をこえるサポートの使用要領)



パイプサポートを継いで使用する例



偏心荷重を受ける場合の例

## ●つなぎ材のとり方

※パイプサポートにつなぎ材(48.6φ)で補強の際は、必ずクランプをご使用下さい。

